



79088  
坊991  
789.3





新陰流兵法之書



三學

一身構

一手足

一太刀

右之三箇を以初學

女門とて是を

學し入る

就三學又五箇之習

一 身法二重小形と通事

一 敵乃其意と我有よとぬ

通事

一 糸巻を指しはら

一 左の腕と正はら

一 足元の膝ふし



一 糸巻を指しはらひます

一 左の腕と正しくしる

一 足元の膝ふし切らせ

阿しは膝と定置巻糸

右

二 雪子之初半は握

初身と車輪と云ふ終を

ち刀の構や後とるを

車と名身まをを脇持

かりましたの肩をきかせて

きおろし降くまのり

膝をまを足く構ゆし

惣ふか留し一 敵まき

礼ぬ用ひや城郭を

河海一垣を降り敵

と指ぬくく名持する

敵をきおろしあは

半ふし志の半は

まふのをへく敵

取くまをやうすし

ふし先持をぬく

一 一刀両段

一 斬釘截鐵

一 半開半向

一 右旋左轉

一 長短一味

右一々立相の習は



一 斬釘截鐵

一 半開半向

一 右旋左轉

一 長短一味

右一七五相之習以傳

耳 矣 里 難 書 顯

### 九箇

一 必勝

一 逆風

一 十大刀

一 和卜

一 捷徑

一 小詰

一 大詰

一 八重垣

一 村雲

乃師弟立相以教之

書面難顯之

天狗抄 太刀數八

一 花車

一 手引

一 明身

一 善待

一 亂劍

一 序

一 破



一 亂劍

一 序

一 破

一 急

右之外太刀扱六

一 添截

一 乱截

一 活人劔

一 無二劔

一 極意

一 神妙劔

右之教を能く習

得し中しるま

ふあをばのし出

るしニ字九巻

いふを大袈と云

やさしを能くしる

た力の教を云

運策於幟幟之中決勝

於千里之外出句いふ

幕をいふ其の中よ

様々なるかこ

千里の外の教は勝

志のいふ此句を

簡易と云ふは

胸を肉を幟幟の中

いふは

いふを能く教

たしよ



心は人しこころの内  
はるをねく歌乃執  
たしよ成るく様  
素素と云く忠敵の機と  
るを道業お情  
之中と云る魚し  
上り敵の機と云る  
少く勝と決勝花  
之外と云る新漢へし  
古軍を引く今戦して  
勝と云おの昔法と云る  
通るも云る刀こま  
切今と勝と云る大軍  
勝今戦と云る大軍の  
今戦乃心と云る云おの  
多法子勝へし云る  
乃勝と云る云る云る  
かき多と云る云る  
き教との云る

就序破急之九廿七  
之截相之事

序上段 中段 下段

破上段 中段 下段 刀棒 壱

急上段 中段 下段 中下 壱

右

此一巻者師弟之相以  
可教可習不及委細  
書述右に目錄於お窮  
人者以此一巻書之  
授以この内門等之禮  
者や為子孫誌之



授以この内弟の禮  
考や為子孫誌之

上泉武藏守藤原秀綱  
七父柳生但馬守平宗嚴

的子柳生但馬守


平宗嚴

寛永十五年臘月吉辰

鍋島飛彈守殿

此一卷と進履橋と云事は  
張良黄石公小履と云事は  
兵道と傳へ後張良は  
はくアと云事は高祖天下を  
治ぬ漢家曰万年と傳へ  
那李是と云事は且心を  
取てを履橋と名付と云  
事は此一卷と橋と那と云  
事は乃道と傳へし也

百武善光衛門

文化九年壬申十月吉日  
  
百

鍋島隼人殿